

浜田港運(株) 社長
(浜田市長浜町)

佐々木伸一郎氏



ささき・しんいちろう

江津市出身。日本大経済学部卒業後、榊山陰合同銀行に入行。2018年に退行し、日新グループの島根合板(株)勤務を経て21年4月に顧問として入社。同年5月に社長に就任した。旅行で歴史ある寺社仏閣を巡り、温故知新の大切さを再認識する。江津市二宮町在住。58歳。

「岸壁延伸の早期実現不可欠」 利用増や新規荷主獲得を図る

島 根県唯一の国際貿易港・浜田港で港湾荷役や通関業などを担う浜田港運(株) (浜田市長浜町) で2021年5月から社長を務める。主力の木材輸入に加え、01年開設の国際定期コンテナ航路での貨物量増加に尽力。昨年3月から週1便に減り、海上運賃が高騰する苦境にあるが、「脱炭素社会の推進で輸送の在り方が見直される中、海上輸送の価値は高まる」と力を込める。

脱炭素社会の推進と陸上運送業者の人手不足などを

背景に、陸上長距離輸送の見直しが求められている。「海上輸送の利点は、一度にトラック数十台分ともいわれる貨物量を効率的に運べることだ。二酸化炭素の排出量はトラック輸送に比べると少ない。ただ、浜田港は島根県外の主要港と比べると週1便と利便性が低く、運賃は割高になる。県西部に生産拠点を持つ企業でも主要港を使ってトラックで長距離輸送するケースは少なくない」

コンテナ航路開設から運航してきた船会社が昨年3

月、一時休止し、現在は週1便となって影響が出ている。「コロナ禍の世界的なコンテナ輸送混乱と海上運賃高騰は、主要港と比べて地方港である浜田港への影響が大きかった。行政支援で荷主企業数と売り上げは微減にとどまるが懸念は強い。利便性の良い他港に振り替えた企業も5社ほどある。船が着岸する福井埠頭でのインフラ整備は進んでいるが、コンテナ船の大型化が進んでおり、既存運搬船と大型コンテナ船が同時着岸できないのが現状。週1便の原因でもあり、岸壁の延伸の早期実現は不可欠だ」

浜田港唯一の荷役業務を担う事業者として、港発展に荷物量増加は欠かせない。

「木材輸入にかかわる有力企業の業容にきめ細かく対応し利用促進を図りつつ、コンテナや運搬船の利用増、新規荷主の獲得に尽力したい。鍵になるのは顧客からの信頼、実現させる職員の確保と定着だ。福利厚生充実の点から、福井埠頭近くに作業員休憩所を新築し、3月にも完成する。人材は企業の財産で港湾業務は専門性の高い人材が必要になる。労働条件や環境を整え、意識や意欲を向上させたい」

(聞き手は村上栄太郎)